

財政安定化基金の設置

平成29年7月28日
府国保運営協議会 参考資料1
(論点1関係)

1. 趣旨

- 財政の安定化のため、給付増や保険料収納不足により財源不足となった場合に備え、一般財源からの財政補填等を行う必要がないよう、都道府県に財政安定化基金を設置し、都道府県及び市町村に対し貸付・交付を行うことができる体制を確保する。

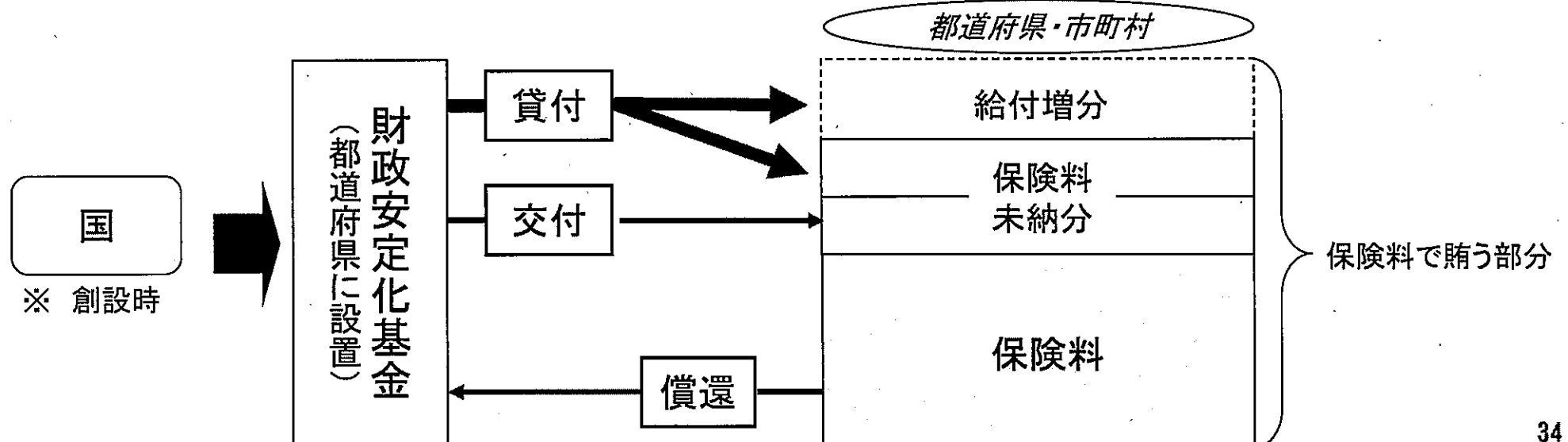
2. 内容

- 貸付…各年度、財源不足額を貸付。原則3年間で償還(無利子)
- 交付…特別な事情が生じた場合、モラルハザードが生じないよう留意しつつ、財源不足額のうち保険料収納不足額×1/2以内を交付

特別な事情に該当する場合 …災害、景気変動等(詳細は、今後地方と協議の上、政省令で規定)

3. 基金規模等

- 2,000億円規模をめざし、国費で創設・順次積増しすることとし、平成27年度は200億円、平成28年度は約400億円(予算案)を措置。
- 交付分に対する補填は各都道府県が決定。
※国・都道府県・市町村(保険料、交付を受けた当該市町村が負担することを基本)で1/3ずつ補填

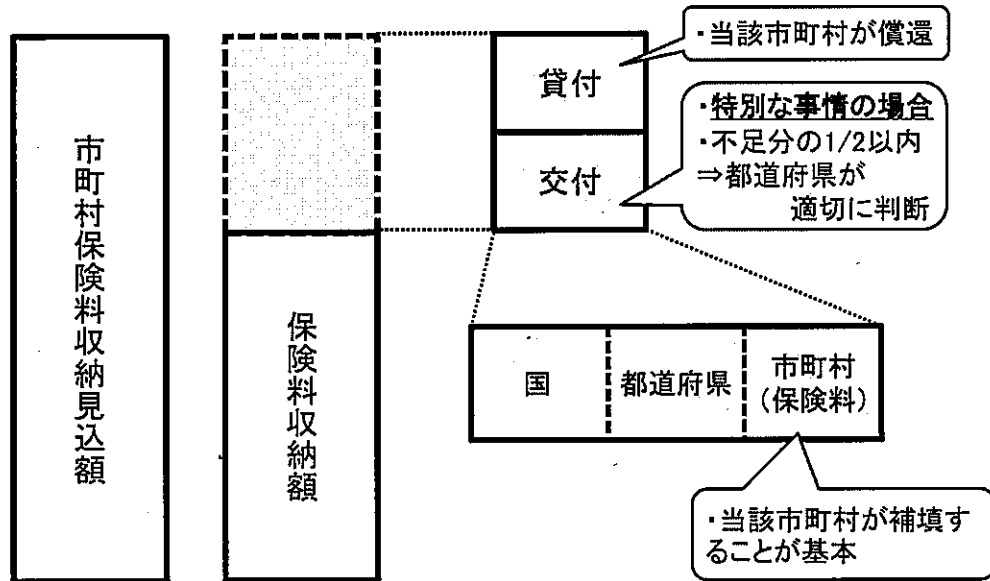


財政安定化基金による貸付・交付(イメージ)

趣旨

- 財政の安定化のため、給付増や保険料収納不足により財源不足となった場合に備え、一般財源からの財政補填等を行う必要がないよう、都道府県に財政安定化基金を設置し、都道府県及び市町村に対し貸付・交付を行うことができる体制を確保する。
→キャッシュフロー不足への対応が基本

市町村において収納不足が生じた場合

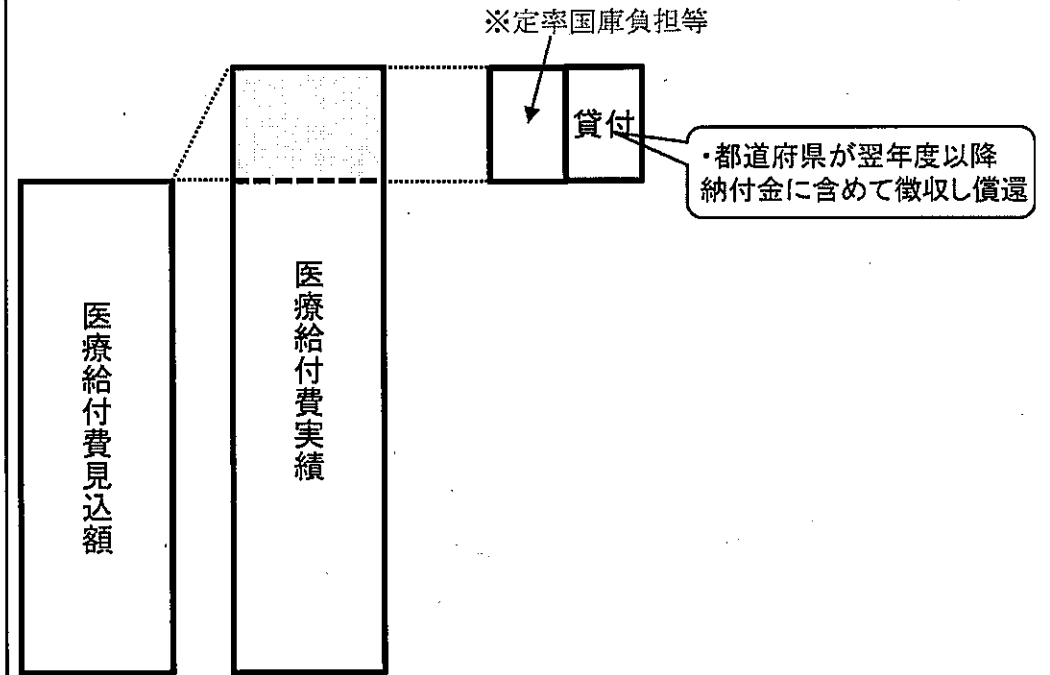


- 〈 特別調整交付金から交付する場合 〉
- ・非自発的失業者に対する保険料軽減
 - ・災害(東日本大震災など)

- 〈 財政安定化基金から貸付する場合 〉
- ・収納率の減少、
 - ・被保険者数の減少
(総所得額の減少を含む)

- 〈 財政安定化基金から交付する場合 〉
- ・多数の被保険者の生活に影響を与える災害(台風、洪水、噴火など)の場合
 - ・地域企業の破綻や主要産物の価格が大幅に下落するなど地域の産業に特別な事情が生じた場合
 - ・その他、上記に類するような大きな影響が多数の被保険者に生じた場合

都道府県全体で給付増が生じた場合



- 〈 特別調整交付金から交付する場合 〉
- ・災害(東日本大震災など)
 - ・流行病(インフルエンザなど)
 - ・特殊疾病

- 〈 財政安定化基金から貸付する場合 〉
- ・給付費見込みの誤り(上振れ)
 - ・一人当たり医療費の伸び 等
 - ※ 実績が下振れした場合には、国保特会の積立金として繰り越されることとなる